(1) Nº 2.061

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

SAB. MARÇO DE 1940

Sr. M. Kobayashi
R. Galvão Bueno, 407

聖市コンデデサンジョキン鉄九三番地
郵函二七六五
發行所 聖州新報社
發行人 香山篤子
購讀料 一年四拾圓
廣告料 一段七二圓

NOTICIAS DE SAO PAULO
Caixa 2765 - Fone. 7-0447
R. Conde de São Joaquim,93
S. Paulo - Brasil

聖市新報

"新政府樹立は一手段 目的は只和平あるのみ"

周佛海和平條件に就き言明

（上海十五日國盟日本）汪精衛派の中心人物として中央政府樹立工作に邁進しつゝある周佛海は、明朗を前に十五日支國交調整交渉の結果得られた和平法案に關して中國々民黨通信機關中華通信社記者の質問に答へ大要左の如き談話を發表した

高宗武、陶希誠の所謂和平條件なるものの發表以後見識ある人は眞實の條件が發表を期待して居るとのことだが、もし和平條件が全部發表されれば汪先生始め國志は中國の生存、獨立及び自由を侵害したものでないことが明らかにされ、實傳上有利だが、條件發表後將來の實行に無限の困難、障害を加へることとなる即ち條件を發表すれば吾人は保全を得るが國家は損失を受く、條件を漸次發表せずば吾人は漸次疑惑を受くるも、國家は永久の利益を得る、吾々は條件の實行を計らんが爲暫次條件の不發表を主張するものである又一部には和平條件が國家民族の生命を侵害するとなす說も流布されて居るが我々は日本が條件を取り結ぶことに依つて離陷區域の國權喪失と民族の消滅、擁護したのであつて、侵害したものでないと信じ居る和平條件實行の見透しに就ては、常に國際上の條約の實行といふものは何時如何なる場合にも絕對的の見透しを持てないものとされて居るが、大勢に就いていへば比較的樂觀出來る、日本が日支事變解決に際し中國の滅亡を慮はず、中國の獨立自由を尊重する前提の下に日支合作の實行すべきことを中國人に明瞭ならしめ中國人がこれを諒解すれば和平を達成し得るのみならず永久合作の基礎も築かれるが故に自分は和平條件の實行に就ては悲觀してゐない、尙中央政府成立と全面的和平の關係如何だが、我々の求むる所は第一に和平、第二に和平、第三にも和平で、和平なくして一切の問題は成らず、汪先生及びその國志は和平運動の僞に一切を犧牲にし、和平完成の爲に一切を犧牲にして居る、中央政府の組織は和平運動の一個の手段に過ぎず目的ではなく、繰返し聲明した樣に我等の目的外には和平を求むるのであつて、内には統一を求むるのであつて重慶が戰ひを止めさへすれば中央政府成立後も我等は重慶に對して寸毫の敵對精神も持たざるのみならず、無限の期待を抱くものである

北歐三國同盟説近し

（ヘルシンキ十六日國盟日本）フィンランド、ノールエー、スエーデン北歐三國防守同盟交渉は目下順調に進行中で今後の情勢に大きい變化のない限り加速度的に成立の運びに至るものと豫想されてゐる

明朗色濃る南京

歴史的場面の展開まつ

（南京十六日發電國盟委員の先發隊一行が時局同盟日本）中央政治會議の停車場には還都準備委員會臨時掛待所が設けられ、警備隊が憲兵隊が忙しそうに往來し近づくにつれ還都の喜びに湧く南京各方面の準備は總てオーケーだ、今は只歴史的會議の開幕を待つのみ、待つのみ、待つ待つ、此の所の階下大使なる使命を擔ふ人々の來着を待つ、此の所の階下大使なる使命を擔ふ人々の來着を待つ、此の所の階下大使なる使命を擔ふ人々の來着を待つ、此の所の階下大使

万事オーケー

中央會議秘書長緒氏談は最後の打合せを了へて十五日夜上海より南京に歸り十六日午后から考試院跡に本部を設け正式事務を開始する、とともに北京路の還都準備委員會より鷄鳴寺下の考試院御葬儀委員會より六朝高輪南町の御式場との間を新しい自動車が縱横に疾驅し、穩雅な門前に立つ桃色襟章、新しい憲兵の顔も和平建國の門出を控え期かである、午後一時廿分着の還都第一列車で中央政治會議委員の先發隊一行が時局廣間、報道人の結所に當てられたので各新聞通信社の電話が目白押しに並んで早くも戰況を伝へる、六朝高輪南町の御式場、主宮、皇族方御拜禮、女小中學生、青年團、在郷軍人、婦人團體等堵列奉送中、斯くて御靈柩車は午前九時十五分閑院宮玉串を靈前に捧げて御拜禮遊ばされ、次で各宮殿下御親族參列諸員の拜禮あり、午後零時御靈柩は午前七時御出棺、皇后殿下御拜禮、皇太后殿下御拜禮、皇族方御拜禮、皇后殿下御柩につづかせられ、沿道には弔旗悲しくはためき、御冥福を祈らせられたと拜聞、斯くて式の前奏曲は益々最高潮へと燭豪華な旋律を傳えてゐる

故竹田宮大妃殿下御葬儀

（東京十六日國盟日本）竹田宮大妃故昌子內親王殿下の御葬儀は、勅使小倉侍從、皇后、皇太后兩陛下御使の拜禮あり、皇族方御拜禮、皇族方御拜禮、皇族方御拜禮

最初の對伯産業移民團

技術で結ぶ あるぜんちな丸で鹿島立

（神戸十五日同盟、日本）大阪商船アルゼンチナ丸は十五日午后神戸出帆、第三回目の航海に就いたが同船には始めての産業移民としてブラジルに渡る福井縣の機業家移民團外す一家族四十五名が乗船して居る、一行はブラジルサンパウロ附近に工場を造り大々的に日本生糸の生産に乗り出す筈であるが、この産業移民團が成功すれば更に第二、第三の産業移民が送られることになつて居る

後續部隊も續々待機中

天津現銀問題

日英間の諒解なる

次いで對佛交渉を開始か

（東京十五日同盟日本）クレーギ英國大使は十五日午前十時外務省に谷次官を訪問、約一時間に亘り天津の現銀問題に關し意見の交換をなしたが、昨十四日の谷・クレーギ會見で現銀問題に關しては大要左の如き骨子により最後的諒解の段階に達したものとみられてゐる、即ち

一、天津英租界内に保管の現銀一千三百餘万元を日英兩國關係の共同管理下に置く

一、右現銀の内より十万ポンドを據出して北支難民の救濟に充てること

一、右十万ポンドの現銀處分の爲塊銀處分委員會を設けると同時に仏委員會には日英兩國の委員の外實際的且つ專門的見地から米國側委員の出席も認めること

而して對英現銀保証が解決すれば直に佛租界内保管三千二百万元を目標に對佛交渉に移ることとならう

谷・クレギー會談

日本）支那桐油對米輸出が殷近額に減退してゐると傳へられ折柄十四日アメリカ商務省發表に依れば支那桐油二月末の香港在荷は六百シマール頃に過ぎず日本軍の九龍鐵道關心の的

ソ・フ戰爭

國側戰死者 一万五千名と公表

（ヘルシンキ十四日同盟日本）ソ聯ハイム元帥は十四日フインランド交戰軍の戰死者一万五千と發表、一部外國筋に傳へられる死傷者數が各方面なつてるが、フインランド軍總司令官マンネルヘイム元帥は十四日フインランド軍の戰死者一万五千と發表、一部外國筋に傳へられる死傷者數が各方面なつてるが、

文藝

シダデイラ　[三]

A・J・クロオニン

三

日間思案した后彼はアベイ博士を訪ねていふ患者の一人に對して彼はどこかの病院に就職口を世話してもらひたいと頼んだ。博士は肺病專門のウイクトリア病院に交渉してみようと引受けてくれた。そのうちに好運は思ひがけなくアンドルウを見舞つた。それは彼の療法のために有名な婦人服裝店ロオリエの或る女店員の頑固な皮膚病が全治したことだつたこれを知つた傭の店員たちもはじめて一種の好奇心から彼の診察室へ來るやうになつた。そしてやがてはこの店の常客の中にも噂をきいて彼の診療を求める者がでてきた。さうといふ患者の一人に對して彼は自動車を買つた。アベラロウ時代の中古の自動自轉車のことを思ふとこれはなんとふちがひだつたか。しかし成功を焦つて昔の理想を日毎に失つてゆく彼を眺めながら、クリスティンはいひやうない淋しさと不安とを感じた

ハムブトンと共に一種のシンヂケエトを作つて不當な利益を貪ることに没々としてゐた二人の醫者はアンドルウがロイ家の主治醫になつたことを知つて彼をその仲間に引入れた。彼の収入はそれがために一層増すやうになつた。しかも成功に酔つた彼にはかつてゐから輕蔑したシステムの犠牲に自分自身の成りつつあつたことがわからなかつた

ロイの家でアンドルウはフランセスと懇意になつた。フランセスは富裕な實業家の若い美貌な妻だつた。社交界の人たちを見慣れたかの女にはまだ粗野なところの殘つてゐるアンドルウが珍らしかつた。そしていつか二人は戯の遊戯をはじめるようになつた。アンドルウがは水々搖り搖りて音に立ちつゝ

或る日、彼はロオリエの店でヒステリイの發作を起した。ロイといふ富豪の娘に應急手當をした結果引續きその家に出入するやうになつた。ロイは良心のない知名の醫者をその製品宣傳用に顧問として雇つてゐる粉ミルク王だつた。

アンドルウはやがてルイ家の主治醫になつた。そのうちにヴイクトリア病院の方からも外來患者を診察するために招聘された。ゆつくりクリスティンと話をする暇がなくなつた。彼は忙がしくなり、

ホテルに訪ねてアンドルウは久しぶりに樂しい時間を過ごした。しかしスティルマンの眞摯な研究談を聞くことは自分の仕事に對する不滿を感じさせた。そして次第に彼は憂鬱になつた

その晩歸宅するとクリスティンは近頃用ひはじめた眼鏡をかけて熱心に本を讀んでゐた。本は聖書だつた

アンドルウはびつくりして

「なんだ到頭聖書を讀むやうになつたのか」

「なぜ讀んぢやいけないの、あなたなんか馬鹿になさるやうがこれだつて立派な女學者のやうすわ」

「ふむ、さうかい。だがねこれだけはいつまでも、お前は段々神經やみの女になつてるよ」

「ええ、さうでせう。でもこれだけは許して下さい、わたしは精神的に死んだ成功者になるくらゐなら精神的に生きてゐる神經やみの女になりたいんです」

そして暫らく離れて暮すことが自分たちの感情を融和するかも知れないと思ひながら三日目に彼は思ひがけない友人の來訪を受けた。それはアベラロウの歯醫者ボオランドだつた。この野性的な屈託のない友人と語ることは彼の心を慰らしく明らかにした。しかしボオランドはロンドンへ遊びに來たわけではなかつた娘のノエリイが膵病の徴候を示してゐるのでアンドルウに診療を求めようとして來たのだつた。アンドルウはこれを快諾した

その翌日、クリスティンはニュウヨオクから歸つて來た。アンドルウはボオランドと一

貸別荘にゐる知人のところへ二三週間の豫定で淋しく出掛けて行つた

一　人になつたアンドルウは病院

せの研究に心を集中しようとした。しかしそれは不可能だつた。彼の心は餘りに落着かなかつたのである。そして一方、彼とフランセスとの戯の遊戯はすくなくとも彼の側では遊戯といへない程度に進展して來た

ウエスト・エンドに新設中につた診療所が開かれてから三日目に彼は思ひがけない友人が自分で治療を引受けてくれた以上娘は必ず全快するだらうと信じながらボオランドはアベラロウへ歸つて行つた。

しかし、その間にも努めて打ぢけた態度を示してゐるアンドルウに秘密のあることを直感してクリスティンはいつとうい人風にこの一切が終るのかと思ひながら暗いやるせない毎日を過ごした

しよに停車場へ迎へに行つた思ひがけない出迎を受けてクリスティンの疲れた顔は急に元氣になつた。

その晩アンドルウは殊更快活な振りをした。何も知らないボオランドはこの舊友の素晴らしい成功を心から喜ぶのだつた。ノエリイはその翌日ロンドンに出て來た。アンドルウは慎重な診察した後かの女が肺結核の初期であることを知つた。そして自分の監督の下に完全な治療を行はうと思つてかの女をヴイクトリア病院に入れることにした。彼は自分で治療を引受けてくれた以上娘は必ず全快するだらうと信じながらボオランドはアベラロウへ歸つて行つた。

しかし、その間にも努めて打ぢけた態度を示してゐるアンドルウに秘密のあることを直感してクリスティンはいつとうい人風にこの一切が終るのかと思ひながら暗いやるせない毎日を過ごした

△　△　△

△　△　△

△　△　△

投稿

廣田　英郎

(元)

俗諺に「甲斐で見るより駿河よい」といふのは、まさか君の主義だつたとは今初めて承はる。秀麗富士は甲州の山奥から見ようが、三保の松原から見ようが世界的のものだ。金華山神を過ぎて穢濁入港直前富士を見て魂の狂ふものもあるとのこと、それ程日本の象徴だ。それにも増して大西郷は裏から見ても裏から見ても大人物だ。日本のこりだ。後世菊地寛じやの、君じやのといふ與太者から賞めて貰ふ爲めに生れた英雄ではない。七十余年前日本の膠家を背負ふ爲め時代の生んだ一人傑人間西郷だ。お前達の批はどうもよい、日本の學生全部。我々ブラジルに在る日本國民が崇拜するのに何を免や角いふことがあるか

「偉人の美談ばかり並べたのでは誰が見ても小學校の修身を見るに等しい。宗教の如きものなれば人間味が無くなる美點あり欠點あつてこそ人間なる。……大西郷も人間なれば菊地寛も人なり、誤があるは當然なり」

新年號の話の屋を見よ、菊地寛は何んと云つてるか

「史實の研究は專門家にやらして置けばいい、歴史教育が國民の精神教育の爲なら英雄の傳記とか、興味中心的な記事が除されるのは當然なことである」と。即ち歴史教育は修身の程度で澤山であり又そうであらねばならぬと寛目云つてゐる。君は菊地寛に入れなかつたらしい。だがこれは君の立場としては無理もない。大凡寛といふ人間は斯くの如く一貫した思想がないのだ、今後はうつかり先輩のことは當然なり」と、美濃部博士も齊藤隆夫代議士も苦笑してゐだらう。筆禍事件じや失言問題じやと何故世間が騒ぐのだらうか。齊藤代議士の爲め議會へ行つて辯護して來いよ

「最近の寛は情報部の何んとかに出世して居るのを知らぬのだ　屋根に登つてどかぬ竿で星をつかくよりも手近にある我々の使命に向つて共に進まねばならない」

情報部の何んとかになつたらどんな與太を並べてもよいといふのか。H・S氏にしろ安元氏にしろ、蓉又私にしろ誰が手近にある我々の使命を怠つてゐるか、若しも議論を闘すことが悪いといふならあんな愚論を書いて平氣で居れる君こそ使命を怠つてゐるのだ。これ以上馬鹿〳〵しくて筆では相手になれぬ。近日中に私は愚聖する、その時に電報を打つてやるから運賃貰ふ拶ひでよい出聖せよ、その時親しく教えてやる、兎に角住所姓名をはつきり私宛直接なり華州新報迄申上げて置け

最後にもう一度大西郷に對する認識を與えて置かう。維新の英傑で一人として大西郷を蔑ひ、その感化を受けてゐない者があるだらうか、あの

詩

山野　泉

窓

高潔なる人格　國を思ふ平誠サが日本臣民のうちにあると　が根強く日本全國民を引き締ふ　慨はしい、これでは靖國神社に眠れる護國の英靈も浮ばれない、一日も早う性根を入れかへなさい、それがせめて　もの外道の罪滅ぼしといふも　のだ

出水点景　九四〇・二・二〇

二週間を降り續ぎし雨の止みし日上聖するためモヂアナ線を汽車にて行く窓ゆ見るパストの赤立をしどよみ秋出水かものものしし流れ　パストに續く雑木林を行く水は水々搖り搖りて音に立ちつゝ

ユーカリ樹生ひ繁みたる林山　峯とまで青物らすべて塡めら　らし出水水面に柔の穂の搖か　瓦工場瓦置場の屋根近くひた　し濁水は流れ淀み　峡の門の谷つ川沿ひ生ふ草は　をし倒されしまゝに續けり　水浸る低地をよぎる女達沿を　し上げつ言葉しをり　山道は水にし埋むか崖壁ちは　づかに人等通ふべく見ゆ

出聖途上

思ひ立つと吾一すぢに旅立ち　ぬうからやからに言告げもせ　ず

夜汽車行く見知らぬ驛の乙女　子のゐ行き戻りて明るき窓下　車中にて。ぐ盲人のアルモー　ニカなき音に思ふ悲しみ

大原　友蘭

大風の過ぎたる後は波立ちて　牧の若草首伏しており　夕立は未だ晴れやらず早も射　す淡き夕陽に黄昏にけり　さわやかな風に日射のぬくゝ　して秋は讀書にふさわしかり　けり　秋よりは冬とや言はむ此の朝　なく吹く風既に寒さふくみて

憂ひと不滿を吹きのけて　私しの胸も　愛の小窓が開いた　川向ふの家も窓を開いて　誰も居ない

永遠の旋風

塩崎　落夢

旋風社同人會生る

寂寞として聲もなき荒野が　涯知れず續いて　淋しい無數の魂が　目的もなく彷徨ふてゐる　悲しい放浪の魂よ　あゝ若人の群よ　突然として呼き起りた　目醒めたる魂の旋風は　あゝ見よ今ぞ絶望の　荒野を蹂躙つて　他邦の天空高く巻き昇るよ　あゝ待ち望みたり　理想の旋風よ　魂と自在の世界を繋ぐ

自由のサイクローンよ　巻き上れ　巻き上れ　永遠の旋風よ　若人の魂の上に

珈琲の實

幹夫

赤くつぶらな　珈琲の實ひとつ　採て　頬ばれど　ほろにがき　その甘味　珈琲！　珈琲！　ブラジルを代表する　唯一の產物　こんな小さな一粒　一粒の中にも　その特質は表はれて　ゐるなり

寄稿者住所

△佐藤花情　郵函二〇三　リンス

△山野　泉　郵函七七　クラビーニョ

△塩崎落夢　郵函三二　ニアラクサラ

△米澤幹夫　郵函三二　ニアラクサラ

△瀧讀二　郵函七七　クラビーニョ

△大原友蘭　パ線ペラクルース驛ペウリスタ植民地第二區

自由律短歌

不二山南歩

せきせきの人混みに壓されて　異人種の體臭にひせてゐた朝

生活の魅力のなんであるかを　獨り反すしてゐる深夜

雨の日はむさ苦しいから窓と　言ふ窓をあけッ放してごろり　と横になる

明るい田園の朝た空だッと　白シャツの袖をまくり一日が　初まる

セピア色にひとときは輝き大　陸の日覆の靜けさはよい

見る見る棉畠一面の濁流とな　り息詰るこの轟音聽いてはゐ　れぬ

試練とは言へかくもきびしび　この豪雨に今は驚す精さへ知　らない

何うにもならぬと知りながら　歪められた農民の悲情は侘び　しい

かくも無慘に押し流された棉　畠で農民の慘めさを噛みしめ　てゐる

地面に窓に叩きつけて降る激　しい雨だ農民の現實のきびー　さかこれは

(三九年ノート抄)

夏點景

佐藤花情

竹

竹や青蟲居たり青蟲に　花茶の大朝燒に日を迎ふ　きのふけふ喜雨遠く　見て過ぐる　夕燒ば茅花を染めて顔に　映ゆ　夕茅花むさみしくぬきて　すつる　道見え虹は濃か　寺まで　きけり

瓜

鳩發つてちる病葉は蝶の　如し　糸瓜棚灌女バケツさげて　來る

一九四〇・三・二〇

初秋雜詠

鰯雲

鰯雲汽車山を廻りトンネル　へ　鰯雲地の涯へ汽車するり　滑ゆ　耳なりぬ蜩びたと止みし　より　たんぼゝや山路に砂の溜　るところ

郷愁

婦人雜誌の口繪寫眞　雲の端におどる日鷹の舞　ふところ

郷愁

稻刈るやみちのく秋おぼ　ろ氣に　啄木鳥の精暗き雨に飛ぶ

一九四〇　三・一五

市況

伯國經濟調査所調

十五日

▲アロース　アグーリャ(ペス)　圓(ポン)	七、〇〇〇
▲カテテ(ペス)　圓(ポン)	四〇、〇〇〇
▲ミーリョ　アマレリンニョ	三二、〇〇〇
アマレロン	一六、八〇〇
▲フエジョン　ムラチーニョ　圓(ポン)	一六、五〇〇
▲バタタ　スペリオール　ポン(ペス)	四〇〇、〇〇〇
▲砂糖(ペス)	七、〇〇〇
▲小麥粉	三三、五〇〇
▲マモーナ	一、五〇〇
▲カフエー(四級品)	一九、五〇〇
▲ノルゴドン	六三、〇〇〇

十五日

▲トマテ(箱)	天〇〇
▲レポーリョ(袋)	二六〇〇
▲エルヴイリヤ(箱)	二〇、〇〇〇
▲ピメントン(箱)	三三、〇〇〇
▲ヴーヴエエ(箱)	三五、〇〇〇
▲ベビーノ(箱)	三一、〇〇〇
▲ポブリーニヤ(箱)	二七、〇〇〇
▲セノーラ(二打)	一〇〇
▲玉子(打)	四、八〇〇
▲ウーバ	三五、〇〇〇

野菜部

K. NAKAO S/A

肥料　農具
藥品　ニカワ

カ・ナカオ化學工業株式會社

サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七五六番
郵函　二一八六
電話　八一二五八七

支店　イタプーラ・ヂ・ミランダ街一七一九
電話　二一六六三七

Dr.Edmur de Sousa Queiroz
Advogado
專門　税金並に勞働問題
辯護、訴訟、
Largo da Misericordia 24 , 7 and.S. Paulo

Dr. H. MAURANO
ドクトール
竹下眞一
自宅タバランダーラ五四八番
電話　二一八九九番
診療時間　午前　午後
病院自宅

ドンベドロ
セグンド病院
外科內科婦人科

診察時間　午前九時より午後五時まで
北大醫學士
今田求
サンス市
電話　四三
郵函　二〇三

賣シチオ
場所　中央線モヂ市
外六域、植林、果樹、養雞、農具一切附格安賣度
中央線線モヂダス驛
廣田洋服店へ
郵函一番

HOTEL AVENIDA
Avenida Rio Branco, 152-162 - Teg. AVENIDA Tel 22-9800
RIO DE JANEIRO
すまい座御が備設する容收客旅の人百五
すまい座御が宿泊料は廿五圓より十三圓(食付事)
りあで便至に達用御らかすまり居して置位中央の街
備設の話電、水道には屋部御各——すまりあで的濟經

DR. SOUZA E SILVA
- MEDICO ESPECIALISTA
SO' TRATA DE CREANÇA
Avenida 10 de Novembro phone, 434 MARILIA

小兒科專門醫
ドトール、ソウザ・エ・シルバ
日伯診療院
下痢、嘔吐、赤痢
喘息、肺炎、肋膜、黴候
(日本人醫あり)
マリリア市
デース・ヂ・ノーベンブロ街五三三
電話　四三四
(沖商店前)

大阪商船
着發廣告
日本へ
北米經由　もんてびでお丸　サントス發四月七日　横濱着五月廿六日
南阿經由　はわい丸　サントス發三月十五日　神戸着五月十九日
はわい丸　ケープタウンより　あるぜんちな丸　神戸發三月十五日　サントス着四月十日
ブエノスより　はわい丸　神戸發一月五日　サントス着三月十三日
サントス　伯刺西爾大阪商船會社
(Sociedade Nipponica de Navegação Brasileira Ltda.)
Rua Cidade de Toledo, 31 SANTOS
リオ　聖市　伯刺西爾大阪商船會社出張所
(Sociedade Nipponica de Navegação Brasileira Ltda.)
Rua do Quitanda, 82 São paulo
オ　Wilson Sons & Co. Ltd. Avenida Rio Branco 73
詳細は弊社代理店へ問合せ下さる度候
(貨物船に付き旅客運賃は乍勝手御斷り申上候)

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
往航　極東一租育一南米一定期航路
復航　南米一ニューオルレアンス一羅府一極東
太平洋岸、フイリピン行荷物輸送引受申候
◇使用船寧萬順型新造優秀貨物船◇
山月丸　往　五月廿日頃　復　六月六日頃
山霧丸　往　四月十四日頃
山風丸
山浦丸
南滿丸
山彦丸　往　三月廿一日頃　復　四月十七日頃
サントス市　JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica, 22 Telephones. 4694 5107 = Santos
聖市　L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 = Phone, 2-7125 = São Paulo

Noticias de S. Paulo
(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

DIRECTORA E PROPRETARIA
CELINA KOWYAMA

Caixa Postal, 2765
Telephone 7-0447
R. Conde de S. Joaquim, 93
SÃO PAULO – BRASIL

ASSIGNATURAS
Anno - - - - - 40$000
Semestre - - - 20$000
Numero do dia - - $500
Exterior, anno - 100$000

日本病院問題

何故看護婦監督の實質指導權を奪ったか

聖市 山室 曉子

記者さま

日本病院看護婦問題に就いて正しい御紙の御意見並に大和氏の公正な御批判を拜見致しまして私も亦病院を思ひ同胞社界の將來を思ふ心で一杯で御座います。茲に島津ケ間敷しくも他人事とは思へぬ「私達の病院」私達同胞の悩みと違退に就いて少しく述べさせて頂き度く存じます

新聞紙の報道と巷間の流説を綜合致しますと加藤、山本兩監督の交迭そのものが既に院内策動分子の暗躍に依る事が明瞭であります。病院側（私は假りに武田副院長側をこう呼ばして頂きます）の交迭理由は伯國の法令に從つて正式の免許狀を有する者が責任者の地位に就くのが至當であるといふ一點であります、一昨年來の國粋化法によれば當然早晩之は實行されねばなら不當をならすべき理由はないのであります。更に見習生を「正式の看護婦とする爲伯國の看護婦學校に入學させる措置に就いても同樣何ら抗議をさしはさむ處はないと考へられます

然例へ名儀上兩監督が配膳係になつたとしても實質的指導權は當然兩監督に歸すべきは論を俟たぬ所であります。之は御紙の如き新聞紙で既に論じ盡されてゐる事情であります。そこで正しく一事を詳細に說明し監督官廳たる總領事館と打合の上兩監督の手續を繼續し■■■